

第2学年 音楽科 学習指導案		日時	令和2年10月26日(月) 3校時
題材名	2 内容(1) A 表現(3) 創作 アイ(ア) ウ	学年・組	第2学年A組
	「サクラサク・オリジナル・プレリュード」	人数	男子13名(内交流学級1名) 女子13名
指導者	西 奈那子	場所	尾道市立因北中学校 音楽室

## 1 題材観

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説音楽編では、2内容(1)A表現(3)創作ア「創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。」イ(ア)「音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。」ウ「創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。」と示されている。

本題材では、触れれば比較的容易に音を出すことができる箏を扱う。箏は、様々な奏法により特色ある音色を出したり、音色に変化をつけたりすることができるため、創作表現をする際に生徒自身の思いや意図を表現しやすいと考えられる。また、1年時に箏曲「さくら」の学習に意欲的に取り組んだという実態から、本題材では、個々のイメージがふくらみやすく、そのイメージを音として表現しやすい「桜」をテーマに、箏曲「さくら」の前奏を創作する。これらの学習を通して、さらに発展的な技能(合わせ爪やかき爪等)を習得しながら、日本人の心に響く音色と情景を想像させる平調子の旋律を用いて、「桜」についての様々なイメージをまとまりのある音楽として創意工夫することが期待できる。

## 2 生徒観

本学年の生徒は、旋律を創作するという学習活動について、本題材において初めて取り組む。本題材の指導事項(思考力・判断力・表現力および知識)に係る調査問題(2小節の旋律を聴き取る問題)における回答は、次の通りである。

①5つの平調子の旋律の中から、「始まる(続く)感じが

する音楽」と「終わる感じがする音楽」に分ける : 正答 27.0% 準正答 53.8% 誤答 19.2% 無回答 0%

②長音階の音楽を聴いて感じたことを書く(楽しそう等) : 96.1% 無回答 3.9%

③短音階の音楽を聴いて感じたことを書く(悲しそう等) : 96.1% 無回答 3.9%

④平調子の音楽を聴いて感じたことを書く(古風だ等) : 80.8% 無回答 19.2%

⑤①～④について、なぜそう考えたのかを説明できる : ①=65.4% ②～④=57.7%

①の結果から、音楽を「(フレーズの)まとまりがある」と判断することのできる生徒は27.0%、①～④の結果から、順次進行や跳躍進行、上行や下行等の音のつながり方の特徴や、音階の特徴を概ね理解している生徒は79.8%であった。

技能については、1年時(器楽分野)に箏の構造や基本的な奏法、演奏の際に必要な身体の使い方及び礼儀作法について学習し、「さくら」の演奏においてスクイ爪や流し爪、押し手を用いた発展的な演奏にも挑戦しているため、「日本ならではの美しい響きを感じることができた。」「もっと難しい曲を演奏したい。」等、学習への意欲がうかがえる。

本学年生徒の学習状況調査からは、個人での学習活動よりもグループでの学習活動の方がより有用感を実感していることが明らかになっているため、グループで試行錯誤しながら様々なイメージを音で表現していくという経験を積ませ、生徒が創作する楽しさや喜びを実感できるようにするとともに、今後の創作活動への意欲向上のステップとなるような学習活動を展開していきたい。

## 3 指導観

本題材を貫く学習課題として「サクラサク・オリジナル・プレリュードをつくらう」を設定し、既習曲である「さくら」の前奏を創作するという活動を通して、創作活動の楽しさや喜びを実感させたい。

指導に当たっては、第1次ではまず、箏での音遊びを導入として用いる。本学年の生徒は1年時に、J.ウィリアムズ作曲『ジョーズ』のテーマを鑑賞し、音楽の持つ役割やその効果について学習しているため、紙芝居の内容に合う効果音をグループで創作させる活動を取り入れることで、条件に合った音や奏法を選択しながら音楽を創っていく過程を体得させることができると考える。また、指導者の範奏を通して、生徒が創作した効果音を箏の奏法や平調子の音階の特徴等に価値付けし、「さくら」の前奏を創作するために必要な知識・技能の習得をめざすと同時に、沢井忠夫作曲『甦る五つの歌』を参考にしながら箏での演奏の幅広さを体感させることで、創作の可能性を広げる。

第2次では、どのような様子の「桜」にするのか、教師の範奏(色々なアレンジを加えた「さくら」)を聴いたり、提示した写真や歌詞を参考にしたりしながら、グループで具体的なイメージやアイデアを出し合わせる。そしてグループでイメージした「桜」の様子や場面をもとに、イメージに合う音色や奏法、リズム等を試行錯誤しながら、「さくら」の前奏を創作させる。その際、音楽のまとまりを実感しにくい生徒(グループ)には、それぞれが創作した旋律をつなげたり、並べ替えたりするよう促し、「まとまりがある」と感じるものと「まとまりがない」と感じるものとを比較し、その要因を探るとともに、まとまりのある音楽をつくる際の工夫点を考えさせるようにする。また、音のつながり方や音階の特徴を実感しにくい生徒(グループ)には、生徒が出した音を教師が変化させたり繰り返したりして、表したいイメージとの関わりを理解させるようにする。前奏をどのようにつくるかについての思いや意図については、生徒同士でイメージを伝え合ったり、互いの発想を交流したりすることを重視し、記譜またはメモで、その過程を残させるようにする。

第3次では、創作した前奏を加えた「さくら」をグループで発表するとともに、全4時間の学習で学んだこと、掴んだこと等を整理し交流させる。

これらの学習を通して創作表現を創意工夫する楽しさや喜びを実感させ、充実感や達成感を味わわせるとともに、音楽に対する感性を育てていきたい。

#### 4 題材の目標

- (1) 箏の奏法による音色の違いや平調子の音階の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、「さくら」の前奏を創作するために必要な、音の選択や奏法の組み合わせなどの技能を身に付ける。(知識・技能)
- (2) 箏の奏法による音色の違いや平調子の音階の特徴、表したいイメージを表現するために必要な奏法を生かして、「さくら」の前奏を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 箏の奏法による音色の違いや平調子の音階の特徴によって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。(学びに向かう力、人間性等)

#### 5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○音階の特徴及び音のつながり方の特徴について理解している。(知識)</p> <p>○創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表している。(技能)</p>	<p>○音色、旋律を知覚しそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>○箏の奏法による音色の違いや平調子の音階の特徴と表したいイメージとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

#### 6 題材構想

(全4時間)	学習課題	生徒の学習活動	評価規準	評価方法
第1次 ① (本時)	◎課題設定 「サクラサク・オリジナル・プレリユードをつくらう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果音に着目して、TVCM(動画)を視聴する。</li> <li>・箏の平調子の音階を用いて、グループで実際に音を出しながら、紙芝居の内容に合う効果音を創作する。</li> <li>・沢井忠夫作曲「甦る五つの歌」を鑑賞し、奏法の幅広さを体感する。</li> <li>・生徒が創作した効果音を用いて、様々な奏法を試してみる。</li> <li>・学習の見通しを持つ</li> </ul>	○主体的に学習に取り組む態度	WS 発言 GWの様子
第2次 ②③	◎情報の収集・整理・分析 「“さくら”のイメージをふくらませよう」  ◎探究 「イメージした“さくら”を表現しよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さくら」の範奏(教師が色々なアレンジを加える)を聴き、箏の奏法によって桜のイメージが変わることを実感する。</li> <li>・どのような様子の桜にするのか、音を出しながらグループで具体的なイメージやアイデアを出し合う。</li> <li>・グループでイメージした桜の様子や場面をもとに、音色や奏法を試行錯誤しながら、前奏を創作する。</li> <li>・記譜またはメモで、創作の過程を残していく。(グループ全員の意見が反映されるようにする)</li> </ul>	<p>○知識</p> <p>○技能</p> <p>○思考・判断・表現</p>	WS 発言 GWの様子 演奏の様子
第3次 ④	◎表現 「サクラサク・オリジナル・プレリユードを演奏しよう」  ◎ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏前に聴き所を説明し、創作した「さくら」をグループ発表する。(1人1面の箏を演奏する)</li> <li>・全4時間の学習で学んだこと、掴んだこと等を整理し交流する。</li> </ul>	○主体的に学習に取り組む態度	振り返りS

7 本時の展開

- (1) 本時の目標 箏の奏法による音色の違いと表したいイメージとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
- (2) 学習の展開

学習内容 (○) 学習活動 (・) 【学習形態】	指導上の留意事項 (◇) (◆…「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て)	評価規準【観点】 (評価方法)
<p>&lt;導入&gt;</p> <p>1 ○動画を視聴させる。(3分)【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が切り替わる際の効果音に着目して、TVコマーシャルやアニメの一部分(動画)を視聴する。</li> </ul> <p>2 ○課題①の動画を視聴させ、学習の見通しを持たせる。(3分)【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果音のない課題①の動画を視聴し、「動画の内容に応じた効果的な音」を実際に創作することを伝える。</li> </ul>	<p>◇本時の学習につながる動画を提示し(ICT)課題意識を持たせる。</p> <p>◇音があるときとないときを比較させ、音楽の効果を確認させる。</p>	
<p><b>学習のめあて</b> どんな音がピッタリ?箏を最大限に生かして「紙芝居の内容に合う効果音」をつくろう!</p>		
<p>&lt;展開&gt;</p> <p>3 ○課題①の内容に合う効果音を創作させ、全体で交流させる。(6分)【班→全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全グループ共通課題の課題①(TVCM等)の効果音を創作し、交流する。</li> </ul> <p>4 ○「甦る五つの歌」を鑑賞させる。(6分)【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏の様々な奏法による音色の変化等を感じ取るとともに、新たな奏法に気づく。</li> </ul> <p>5 ○課題②をグループで創作させる。(12分)【班】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏の平調子の音階を用いて、グループで実際に音を出しながら、課題②の内容に合う効果音を創作する。</li> <li>・課題②は、グループごとに内容が異なる紙芝居である。(様々な創作のアイデアを出すことが目的)</li> </ul> <p>6 ○創作した効果音を交流させる。(10分)【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで創作した紙芝居②の効果音を隣のグループに紹介するとともに、代表が動画に合わせて発表する。</li> <li>・生徒が創作した効果音を用いて、様々な奏法やリズムを試してみる。</li> </ul>	<p>※創作の経験が少ないことから、数種類のアイデアに絞られることが予想されるため、グループ活動の様子を見て時間を設定する。</p> <p>◇箏の色々な奏法に気づかせ、創作の可能性を広げる。</p> <p>◇記譜またはメモで、創作の過程を残すようにさせる。</p> <p>◆自分のアイデアを持つことが難しい場合は、グループで出た効果音に1音付け足したり、昨年度習得している奏法(流し爪等)を思い出させたりする等、試せそうなことを考えさせる。</p> <p>◇生徒が創作した効果音を、箏の様々な奏法に価値付けし、技能を習得させるようにする。</p>	<p><b>態</b>奏法による音色の違いと表したいイメージとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>(WS, 発言, グループワークの様子)</p>
<p>&lt;まとめ&gt;</p> <p>7 ○①「ぴったりな効果音」をつくるために大切なこと、②創作の魅力や面白さについてまとめさせるとともに、次時への見通しを持たせる。(10分)【個→全体】</p>	<p>◇初めて創作に挑戦した感想を交流させることで、次時の前奏創作への意欲向上につなげる。</p>	
<p><b>【まとめ例】</b> 悲しい・ショック等の感情や場面に合う音は、一から四までの低い弦を使ったり、2つの音を一緒に弾いたりして不安な感じを出すとしっくりきた。また、楽しい・嬉しい等の感情や場面では、高い音や六、七、九の音で明るい感じを出すと良かった。ぴったりな効果音を創るためには、イメージがとても大切だとわかった。自分たちで音楽を創るなんて無理だと思っていたけど、グループでやってみると、意外とたくさんアイデアが出てきて楽しかった。次は自分たちにしかない「さくら」の前奏を創作するので、今日学習したことを生かして頑張りたい。</p>		

8 話し合いのデザイン (題材を通して)

「引き出す」発問①  
「紙芝居の内容に合う効果音」を探してみよう！

- 悲しい・不安等の感情を表すときには、低い音を使ったら良いと思う。
- 同時にたくさんの弦を鳴らすと不安定な音がするから、暗い感じが出るよ。
- 嬉しい・喜び等を表現するときには、高い音を使うと良いと思う。
- 六・七・九の弦は、明るい感じがする。一緒に鳴らすと長調の和音だね。

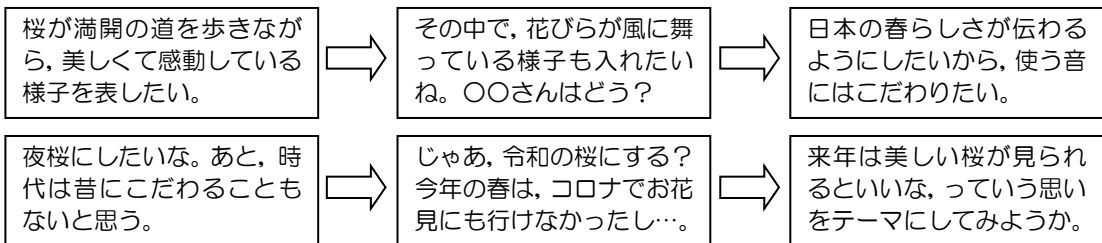


「引き出す」発問②  
友達の「紙芝居の効果音」には、どんな工夫がされていたろう？

- 柱よりも左側の弦を左手で鳴らして、不安な感じを出していた。
- 爪で弦を擦っていた。シャーッという独特な音が出していた。(すり爪)
- 左手で弦をはじいて、かわいらしい感じを出していた。(ピツィカート)
- イメージと音色が合っていて、全体的にまとまりがある効果音だった。

創作表現の幅広さに気付かせる視点

「考える」発問 ※ □ の対話はグループワークの2例  
表現したい「さくら」のイメージをふくらませよう！



創作表現への思いや意図を持たせる視点

「深める」発問 ※ □ の対話はグループワークの例  
どのようにすれば、イメージ通りの「さくら」が表現できるだろう？

創作表現の楽しさや喜びを実感させる視点

- ★花びらが風に舞っている様子を表現したい。(Part.1)  
○「流し爪」で巾から一までの弦を一気に鳴らす。  
●演奏するときの力加減に気を付けないと、花びらが舞っている感じは出ないと思う。  
○一の弦に向けて、テクレシエンドになるように演奏したら良いかも。
- ★花びらが風に舞っている様子を表現したい。(Part.2)  
○「巾・為・斗」を2回弾く。1回目は強く、2回目は弱く弾いて変化をつけるようにする。  
●「巾・為・斗」に続けて、高さを変えて「八・七・六」でも同じように2回弾いたら、「ひらひら」という感じが出るかも。
- ★桜への思いを募らせている様子を表現したい。  
○2つの弦を同時に鳴らして(かき爪)だんだん速くしていく。  
●「シャシャテン」(割り爪)を繰り返して、だんだん速くしていくのも迫力が出そう。  
○ギターを弾くときみたいに、爪で弦をかき鳴らすのも面白そう。
- ★前奏は今年の春のみんなの気持ちで、「さくら」の本編ではさくらの美しさを表したい。  
○「甦る五つの歌」でやっていたように、柱の左側を鳴らして不安を表す。  
●不穏な感じから、だんだんと「さくら」の冒頭につなげたいから、「七・七・八」を使った旋律をつくってみよう。